

研究・調査報告書

報告書番号	担当
100	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and type 2 diabetes Meta-analysis of epidemiological studies indicates a U-shaped relationship アルコール消費量と2型糖尿病 疫学研究のメタ解析ではU字型の関連を示している	
執筆者	
S.Carlsson・N.Hammar・V.Grill	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetologia(2005)48:1051-1054	
キーワード	
アルコール・疫学・メタ解析・レビュー・2型糖尿病	
要旨	
<p>アルコール消費量と2型糖尿病の関係を明らかにするために、既に公表されている疫学研究についてメタ解析を実施した。この解析では1988年から2004年に公表された観察期間が20年以上の13のコホート研究を対象にした。その結果、中等量の飲酒(1日アルコール消費量5～30g)は少量飲酒や非飲酒と比較して、2型糖尿病を約30%予防する効果があることがわかった(男性の相対危険度0.72、95%信頼区間0.67～0.77、女性の相対危険度0.68、95%信頼区間0.61～0.75)。この結果は、年齢やBMI、喫煙、運動、糖尿病の家族歴の有無、階層、食事状況を調整しても変わらなかった。多量飲酒(1日のアルコール消費量30g以上)ではこのような予防効果は認められなかった。また1つの研究では多量飲酒が2型糖尿病を増加させる可能性が示された。すなわち、アルコール消費量と2型糖尿病はU字型の関連をもつことが示唆された。しかしこの結論は多様な方法によって行われ、定義も一定ではない研究をもとにしているため、特に多量飲酒と2型糖尿病の関連についてはさらなる検討を要する。中等量飲酒についても、酒の種類・飲酒頻度・性別・民族についてさらに検討を進める必要がある。</p>	